



川西幼稚園だより

大人になったあなたを支えるのは、子ども時代のあなたです

令和7年6月

富田林市立川西幼稚園



動きながら子どもは学ぶ「運動の敏感期とは・・・」

彼らはただ走る。朝の神社で、園庭で。急いでいるわけでもないのにダッシュするあの小さな背中。

一生のうち一番吸収の良い「運動の敏感期」。神経回路と筋肉の接続が活発に行われている幼児期において、身体を激しく動かすことは、脳のシナプスを鍛えるトレーニング。つまり走ることは“遊び”であると同時に筋トレでもあり”学習”でもあります。

「走ると楽しい！」という体験が、強く脳裏に焼き付きます。だから彼らはまた走る。そして、笑う。

そうやって、自分の身体と心をひとつにして、世界と出会っています。

ただの体力の問題だけではなく彼らの目に映る世界は、いつだって“新しい”のです。昨日通った道も、今日は違って見える。風の向きが違う。花が咲いた。違う色の石ころがある。そんな「変化」を感じ取ることが彼らの成長のための仕事ですね。

大人になるにつれて、走るのには目的がいるようになります。「走ること」は「何かを達成する手段」になり、それ以外では、走らなくなっていきます。でも子どもは違います。彼らは「未来」をめざして走っているのです。

幼児期の子どもは、一切、手を抜くことを知りません。横断歩道の白線。バランスを取らないと転びそうな敷石。ジャンプしたら届きそうな葉っぱ。ヒラヒラ飛ぶ蝶々。雨上がりの水たまり。重くて運べないような水いっぱいのかい。目映る自分を高めてくれそうな課題を見つけてはチャレンジします。大人ができることは、子どもの好奇心やチャレンジを認めたくて、成長に合わせた場所（環境）を選んで見守ってあげること。多少、服も手足も汚れるけれど、よく洗えばきれいになります。何なら自分で洗えるように、子ども用の洗濯ブラシを用意して一緒に洗い方を教えてあげましょう。周りの大人が「運動の敏感期」にあることを知っていれば、子どもの見え方が一気に変わります。さらに4歳くらいになると、力加減の調整が始まり、自分の動きを洗練し始め、気品や礼儀の入口へと進みます。私たち大人の所作のすべてがお手本になります。お手伝い（料理、皿洗い、窓ふき、組み立て、水やり等）を一緒にやり感謝される経験は、日本の子どもが低いといわれる自己有用感を育て、将来の自己肯定感の土台になります。

育てたいこと 6月のねらい

- 3歳児：＊教師や友達と関わりながら好きな遊びを楽しむ。
＊梅雨の時期や身近な生き物に興味をもつ。
- 4歳児：＊友達と関わりながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 5歳児：＊友達との関わりを深め、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。

6月生まれのお友達

★お誕生日おめでとう★

すずらん組2名のお友達が
誕生日でした。

